

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>入居者・職員・地域との会話から和やかな雰囲気となり、関わりを持ち、輪が広がっていけるように理念作り。</p> <p>○</p>	<p>「話」「和」「輪」の実践。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎朝の申し送り時やカンファレンス時に唱和し確認している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>利用契約書の中に記載し、掲示板にも貼っている。又、併設施設等にもパンフレットを置いたり、のぞみ便りも発行している。</p> <p>○</p>	<p>地域への関わりがうすいため、工夫したい。(畑を借りる等)</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の神社に散歩に行った際、挨拶を交わし、一緒にお茶をいただいたりしている。</p> <p>○</p>	<p>まだまだ機会も少ないため、日常的に付き合いができるようにしたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭り等には、入居者と共に参加したり、学生のボランティア・訪問もあり、交流を深めている。</p> <p>○</p>	<p>自治会に参加したり、地域の行事に積極的に参加したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生の受け入れも積極的に行っている。又、認知症の理解について、他のサービスとの茶話会等にも関わりを持っている。	○	他のサービスとの関わりが始まったばかりであるため、更に広げていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価について確認し、その後各ユニットの全体と段階別に自己評価をし、質の向上に努めている。結果は、まず全職員に申し送り、その後各ユニットで話し合っている。	○	評価結果を全職員に周知徹底し、ケアの質向上に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員のメンバーを構成し運営状況等の報告を行っている。	○	報告や情報交換にとどまらず、運営推進会議と評価を結びつけ、質の確保、向上を図りたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に一度市役所に現状報告を行い連携を深くし、協力関係を築く取り組みをしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要なケースは現在ない為、管理者は制度を理解しているが、他の職員は理解していない。	○	権利擁護に関する制度の研修に参加し理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	抑制委員会等にも参加し、椅子・ソファ等くつろげる体勢を取れるよう配慮している。又、言葉による暴力もある事を話し合っている。	○	まだまだ言葉に威圧感があり、言葉の謙虚さを全職員が認識する必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	要介護度によってはスタッフが個別に意見などを尋ねたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	意見や提案を聞く機会は設けているが反映できているか否か職員の声を大切にしていきたい。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、職員が研修を計画的・継続的に受講できるように配慮している。研修内容は全職員に報告し、共有しあってケア向上に活かしている。</p>	○	職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会を確保していきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>研修や事例検討発表等に参加し、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。近隣のグループホームと交換研修を行った事がある。</p>	○	交換研修の機会を定期的に設けたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的に親睦の場を作り気分転換が図れる機会を設けている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた相談、アドバイスをしている。向上心がもてるよう職場環境等配慮工夫している。</p>	○	研修希望があれば勤務体制を調整し研修を優先している。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族だけの見学が多く、本人との事前面談が実施できていない。</p>	○	併設よりの入所時には、事前に見学等もあり、話の傾聴も可能だが、ほとんど事前面談の実施がなされていないため、今後取り組んでいく。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>来所時(相談時)に介護上の困りごと等について、話を伺っている。</p>	○	見学後にも連絡を取るようにし、信頼関係ができるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には電話だけでなく、来所していただき話しを伺っている。(数回でも)場合によっては、他事業所のケアマネジャー・ソーシャルワーカー媒体になっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家人に宿泊してもらったり、職員の横にて座位してもらったりと、場の雰囲気に馴染んでもらっている。	○	事前の交流を深めるよう訪問したりする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しく」の関係を持ち、得意分野での力を発揮している。お手玉を一緒に作成。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を開催し、家族の意向を聞き、家族の立場になれるよう努めている。	○	家族会だけでなく、ゆっくりと会話できるような時間・環境づくりに取り組みたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の想い等を見極め、行事に家族参加を依頼したり、外出・外食の機会を作ってもらったりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りに行ったり、外出時には知人・友人宅に遊びに行っている。	○	行事等、家族だけでなく、友人等にも参加してもらえるように取り組む。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶や食事の際には、職員もテーブルに着き話題提供をしたり会話を持つようにしている。仲の良い方同士の関係や力、個性をうまく活かす配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	挨拶を交わしたり、近況を尋ねたりし、関係維持を図っている。のぞみ便りを配送する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話の中から希望、意向を分析し、日々の表情、行動からも意思等を汲み取り把握するよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より話を聞き、バックグラウンドアセスメントを作成。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活の中で残存機能が活かせるようにしている。	○	ゆっくりと関心や興味が持てるような環境づくりを増やしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望をもとに、介護計画を作成。3ヶ月毎にカンファレンス・モニタリングを行っている。	○	モニタリングの記載が不十分。書式について検討中。家族のカンファレンス参加を増やす。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて見直しができている時とできていない時がある。	○	状態変化、状況に応じてプチカンファレンスを適時開催し、見直しするよう取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等の具体的状況および、日々の暮らしの様子や本人の言葉等を記録し、ケアプランに沿った内容が記録できるようにしている。また、記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。	○	独自の記録様式を作成しているが、改善点等ないか見直しを考えている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、24時間駐住の医師・看護師で対応。 当直看護師が巡視している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの来所はあるが、民生委員等との関わりがない。	○	地域資源が活用できるように取り組む。(図書館等)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問販売(パン)・訪問理美容を利用している。	○	介護保険以外のサービスを利用できるよう他事業所との連携を図りたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連絡・情報交換を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医にて受診。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に脳外科受診。その際には、手軽にできるケア方法等を教わっている。塗り絵(心理的背景の察知)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	外来看護師が兼務であるも、1日1回来所し、日常の健康管理をしている。又、留意点・指示等はカルテに記載。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関・ソーシャルワーカーとの連携を図っている。又、入院時には面会に行き、家族との情報交換もしている。病院カンファレンスに参加。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関わる指針を作成し、状態の変化がある度、家族・主治医・看護師を交えて話し合いを重ねている。	○	ハード面も含め、職員の技術・知識を高める。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時の対応に関し、家人とも話し合いをし、意思確認している。	○	入所時の初診には家人も付き添ってもらっている。又、他病院受診者にも急変の対応のため鴨島病院の主治医もいる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活歴・生活環境・支援内容・注意点等を介護サマリーに記入し、情報交換している。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時等には、羞恥心を考慮し、離れた場所等にて介助を行っている。 カードックスを使用。	○ まだまだ職員が上の立場になり声かけをしている事もあるため、意識付けを図りたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	嗜好や活動に対する関心を見極め、意思表示できるようにしている。(食事の粥と寿司どちらがいいか・・・等)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと食事をしたり、好きな歌謡テレビを夜にゆっくり観たりと本人のペース・希望を尊重する。	○ 3・4ユニットが20:30までと制限があるため、全ユニットでの対応ができるようにしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みのある理美容院に行っている。家人とも連携を図り、カーラー等の準備をしてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房により運搬しているが、職員も一緒に食事をし、会話も楽しんでいる。	○ 一品でも入居者と一緒に作れるように取り組みたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	冷蔵庫に好みの飲料等を準備し、自由に飲食している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、ほとんどの方が紙パンツから布パンツに変更した。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に合わせて入浴している。入浴時間は午前中から就寝前までとっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間においても、本人のペースに合わせ、ゆったりと過ごせるようにしている。又、足浴や温かい飲み物等もすすめ、良眠できるようにしている。	○	全ユニットにおいてももう少しゆったりと過ごせるようにしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野での活動を支援している。職員は感謝の言葉を伝えている。他入居者のズボンの裾上げや自らの衣類の繕い等をしてもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数を手元に持っている方もいるが、預っている方もいる。	○	一人ひとりの財布等を準備し、各自が支払えるよう工夫したい。(小銭の準備等)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を兼ねてごみ捨てや洗濯干しに行っている。車椅子の方も一緒に参加している。	○	その日によっては、希望に添えないこともあるので、柔軟に対応できるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の方の希望を取り入れながら、ドライブレク・食事会をしている。家族との外出も増えている。	○	月に1回は入居者の希望を聞けるよう話し合いをしている。(話・和・輪)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話や手紙を出しに行ったりしている。	○	プライバシーに配慮できるような環境を作りたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めておらず、仕事帰りに寄られる家人も多い。契約時には、夜間面会時の方法を説明している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会に参加し、共有認識を図っている。利用契約書に組み込んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠している。	○	急な階段があるため危険。階段周辺の設備を整えたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく見守りができるように全体が見渡される所に座位している。 夜間は数時間ごとには巡視している。	○	遅出の勤務時間を工夫した。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の趣味に必要な物品(かぎ針・はさみ)は自己管理してもらっている。毎日、2回程居室チェックし確認している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を作成し、回覧している。	○	事例を基に対策等を話し合い、SHEL分析を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間、急変時に対するマニュアルを作成。又、応急手当の勉強会も開いている。	○	全職員が対応できるよう努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の施設と共に火災訓練を実施している。	○	火災のみであるため、地震時についても訓練が必要。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方が喜んでいる外出等によって、リスクも高くなることを写真等を見てもらいながら具体的に説明している。	○	転倒スコアシートを作成。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックをし、体調不良等気になったことは外来に報告。1日1回、外来看護師が来て留意等はカルテに記載している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診・薬の処方時には、外来記録書に記入し、把握している。鴨島病院の薬事録を備え、確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給強化を基に毎日簡単な運動も取り入れている。排便チェック表を作成し、一人ひとりの排便ペース等を把握している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には口腔清潔を行い、夜間には義歯をポリドントにつけている。	○	定期的に歯科衛生士等の指導も受けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、おやつ時にはお茶2杯をすすめたり、ジュース・コーヒー等飲料にも工夫している。食事・水分摂取量の表を作成している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成し、全職員で学習し、予防・対策をしている。	○	外部者・面会者の感染予防に努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食の食事は厨房より運搬されているが、布巾・まな板はその都度消毒し、使用した食器類は全て乾燥機にかけている。	○	入居者の方の居室にある飲食物について、見落としや管理不足もあるため気をつけたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を生けたりし、明るい雰囲気にはしているが、施錠をしているため出入りが不便。	○	もっと気軽に出入りしやすいように工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩の際に採った草花を卓上にさしたり、季節の壁画を入居者と共に作成している。	○	ホールだけでなく、浴室・トイレを家庭的な雰囲気に工夫したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室も2箇所あり、ソファ等も設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団は使い慣れた物を使用し、家族の写真やぬいぐるみ等、馴染みのある物を置いている。	○	全入居者の方の居室ができるだけ家庭的な空間になるよう努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適時、窓を開け換気をしている。冬には濡れタオルを使用し湿度を保っている。	○	玄関に施錠があるため、玄関・ロビーの換気に気をつけたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下も広く手すりもある。又、トイレには車椅子用もあり、居室も生活用品を設置してもゆったりとしている。ADL自立の方には、居室で入浴できるように支援している。(ユニットバス有)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物等衣類への執着があるため、個別のカゴを準備し、分かりやすいように工夫している。他ユニットとの連携を図り、入居者様の状態把握をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花を植えたり、ベンチを設置し、天候の良い日にはお茶や食事をしたりしている。	○	入居者の方が過ごしやすいように工夫したい。(パラソル等)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ハード面、体調面においても医療的となる為、各ユニットごとだけではなく、4ユニットの広さを利点とし大家族として、各入居者の状態を把握しゆったりと過ごしてもらえるようにしている。

又、入居者との話・和・輪を大切に、週1回は趣味・活動の日とし、スタッフも一緒に楽しんでいる。